

宿根木の Machi & Crafts 運動

國學院大學観光まちづくり学部

Machi & Crafts 運動

清野 隆

1. 活動の概要

持続可能な環境、社会、経済の構築が喫緊の課題とされて久しい。私たちはこの大きな目標を達成するために、「まちの知」、すなわち、暮らし、生業、習俗、まちづくりの活動に内在する知恵や工夫に注目している。本活動は、風景、暦、空間構造、社会組織に関する調査を通じて、環境とコミュニティや文化の関係を読み解き、宿根木集落の「まちの知」を発見する調査実施する。さらに、一連の活動の成果から、「まちの知」の記録を作成し、アーカイブ化するとともに、地域住民に共有することも目的とする。

令和6年度は2回の調査を行った。1回目の調査では、8月19～22日の4日間（3泊4日）宿根木集落に滞在して、聞き取り調査を行い、町並み保存を支える仕組みや活動を把握した。2回目の調査では、10月13、14日に宿根木祭りの参与観察を行い、大獅子や鬼太鼓、門付けといった様式とその担い手、これらを介した地域コミュニティの交流の重要性を把握した。

2. 活動の成果

(1) 町並み保存とまちの知

宿根木での聞き取り調査を通じて、宿根木住民憲章、宿根木を愛する会、町並み保存協力金などの仕組みによって町並み保存が成り立っていることを把握した。宿根木では自治会と宿根木を愛する会が住民の暮らしを尊重することを基本方針とする憲章に則して保全活用を検討し、実践し続けている。宿根木は多くの来訪者が訪れるため、観光のために空き家を活用することは容易と思われるが、憲章に則した保全活用によって、町並みだけでなく、住民の暮らしが守られている。対策が難しい観光公害はこれらの仕組みにより、最小限に留められている。同時に、町並み保存協力金によって町並み保存を支えており、観光と暮らしの両立が図られている状況があることも把握した。

以上の仕組みとともに、町並みは地域住民との関りで保全活用されていることが重要であることを学んだ。具体的には、こぼへぎ、住民ガイド、風景と暮らしの関りである。

活動記録1 町並み保存に関する調査

8月19～22日の4日間（3泊4日）宿根木集落に滞在して、町並み保存に関するまちの知を発見する調査を行った。

8月20日

- ・宿根木を愛する会代表・濱田嘉夫さんへの聞き取り調査
- ・宿根木自治会長・柴田博文さんへの聞き取り調査
- ・石塚敏行さんのガイドを聞きながらまちあるき

8月21日

- ・「ジオの自然探訪マップ」を用いたまちあるき
- ・各自でまちあるき
- ・各自で住民への聞き取り調査

8月22日

- ・宿根木公会堂で報告会

活動記録2 宿根木祭りに関する調査

10月12～15日の4日間（3泊4日）、宿根木集落に滞在して、宿根木祭りの参与観察を行った。

10月13日（日）

- ・宿根木祭りへの参加。大獅子と鬼太鼓の運営補助
- ・宿根木公会堂で開催された青年芝居への参加
- ・地域住民への聞き取り調査

10月14日（月）

- ・青年芝居や宿根木祭りの片付けへの参加
- ・地域住民への聞き取り調査

図 令和6年度の活動記録



写真 町並み保存に関する講義やまちあるきの活動（筆者撮影）



写真 学生たちが参加した宿根木祭りの風景（筆者撮影）

伝統的建造物の修理や修景は文化財保護制度の枠組みの中で行われており、専門的な知識に基づいた工事には住民が関与できる部分は多くない。そのため、屋根材である木羽を作成するこぼへぎ、町並みや建物を眺めるだけでは理解することはできない宿根木の歴史と物語を伝えているガイドを住民が担っていることは宿根木の町並み保存を持続するために重要になると考えられる。このほか、集落の中を流れる称光寺川、周囲を囲う農地や里山など、住民が関与することで保たれている。

（2）宿根木祭りとまちの知

宿根木祭りは10月の第二土曜日、日曜日の2日間に渡って、開催される。祭りの2日間、大獅子、鬼太鼓が宿根木の各家を一軒ずつ訪ねて奉納する門付けという形式で営まれている。さらに、夜には宿根木公会堂で青年部による青年芝居が開催される。壮年が担う大獅子、青年と子どもが担う鬼太鼓、各世帯が神様を歓待する門付け、青年芝居では、住民同士が交流する風景がみられ、コミュニティの持続性を高めている行事であることを把握した。特に「門付け」の交歓は、大獅子や鬼太鼓と同様に、宿根木祭りの魅力、かつ重要な要素であると考えた。さらに、門付けを支え、各家庭で郷土料理がふるまう女性たちの存在と役割が印象に残っている。今後の調査活動では、集落のさまざまな活動における女性の役割を把握する必要があると考えている。

3. 今後の活動予定

令和7年度以降も、宿根木集落を訪問して、まちの知に関する調査を実施する。具体的には、生業、農業、海と山の暮らしを支えている知恵や技術を明らかにするための聞き取り調査を実施する。その際は、令和6年度の成果を踏まえて、集落の女性への聞き取り調査を実施したいと考えている。